

一般財団法人京都市防災協会

第1 法人の概要

1 代表者

理事長 川中長治

2 所在地

京都市南区西九条菅田町7番地 京都市市民防災センター内

3 電話番号

075-662-1849

4 ホームページアドレス

<http://www.kyotobousai-c.com/>

5 設立年月日

平成6年10月1日

6 基本財産

10,000千円（うち本市出えん額10,000千円，出えん率100%）

7 事業目的

防災思想及び防災知識の普及並びに防災に関する技能向上のための教育指導その他地域防災体制の確立に資する事業を推進し，もって地域社会の安全と福祉の増進に寄与すること。

8 業務内容

- (1) 防災思想の普及及び高揚に資する事業
- (2) 事業所等に対する防災の教育指導に資する事業
- (3) 各種防災関係講習
- (4) 防災に関する調査及び研究
- (5) 防災設備等の普及指導
- (6) 京都市市民防災センターの管理運営
- (7) その他協会の目的を達成するために必要な事業

9 所管部局

消防局総務部総務課（TEL075-212-6612）

10 役員名等

(1) 理事長

川中長治

(2) 常務理事

下遠秀樹

(3) 理事

森澤正一，尾池和夫，木下麻奈子，古川隆三，貴志吉延，三宅真輔，田中照人（行財政局長），
荒木俊晴（消防局長），山内博貴（消防局次長）

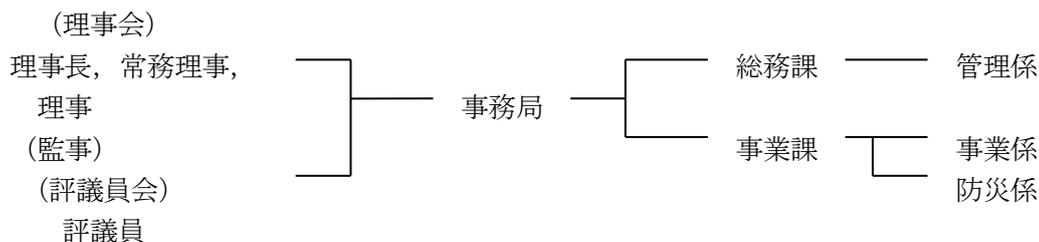
(4) 監事

白崎幸男，副島將司（京都市消防学校長）

11 常勤職員数

17人（うち本市派遣職員2人）

12 組織機構



第2 経営状況

1 平成 28 年度決算

(1) 事業報告

ア 京都市市民防災センターの管理運営

各種防災体験を通じて、来館者に対して防災に関する知識や技術の普及向上及び防災意識の高揚に努めた。

平成 28 年度の来館者数は 93,724 人、自主防災組織、事業所、学校等の団体の来館は 1,146 団体であった。

イ 防火防災に係る各種イベントの開催

防災週間や学校の休暇期間中に、次の各種イベントを京都市市民防災センターで開催し、来館者に対して防火防災思想の普及に努めた。

- (ア) ゴールデンウィーク防災フェスタ 2016
- (イ) BOSAI サマーフェスタ 2016
- (ウ) 防災展／救急展 2016
- (エ) オータムフェスタ 2016
- (オ) 園児の描く消防の図画展示会
- (カ) 冬休み子ども防災アニメ大会
- (キ) 防災フェア 2017 (防災とボランティア週間)
- (ク) 3.11 きずな・京都一大震災を教訓にー
- (ケ) BOSAI スプリングフェスタ 2017

ウ 防災講演会の開催

異常気象、風水害、震災（熊本地震）をテーマとして、次の防災講演会を市民防災センターで開催し、市民に対して防災情報の提供を行った。

- (ア) 災害に強いまちづくり講座（Ⅰ）（「風水害から身を守る正しい知識と行動」をテーマとして 2 回開催）
- (イ) 災害に強いまちづくり講座（Ⅱ）（「平成 28 年度熊本地震から見えたこと」をテーマとして開催）
- (ウ) 災害に強いまちづくり講座（Ⅲ）（「平成 28 年度熊本地震から見えたこと」をテーマとして 2 回開催）
- (エ) 特別防災講演会（「防災は自助・互助・協働のまちづくり」をテーマとして開催）

エ 防火防災講習の開催

京都市（消防局）と連携を図り、次の講習を開催し、事業所の防火防災体制の強化及び応急手当のできる人づくり・環境づくりの推進を図った。

講習の種別	実施回数（回）	受講者数（人）
応急手当普及員講習（本講習）	12	138
応急手当普及員講習（再講習）	12	167
防火・防災管理業務受託法人等教育担当者講習	1	8

講習の種別	実施回数(回)	受講者数(人)
甲種防火管理講習	19	2,273
甲種防火管理講習(再講習)	2	160
乙種防火管理講習	3	109
防災管理講習(新規講習)	2	116
防火・防災管理講習(併催・新規講習)	6	745
防火対象物点検資格者講習	1	43
防火対象物点検資格者講習(再講習)	1	49
防災管理点検資格者講習(新規講習)	1	25
防災管理点検資格者講習(再講習)	1	21
自衛消防業務講習(新規講習)	24	788
自衛消防業務講習(再講習)	14	404

オ 広報広聴活動の実施

(ア) 京都市市民防災センターの利用 PR

a 自主防災会、事業所、各種団体、小学校、幼稚園及び各消防署等に対し、京都市市民防災センターの来館勧奨用案内チラシを配布し、利用 PR に努めた。

(a) 来館勧奨用案内チラシ(開館日カレンダー入り)：75,000 部

(b) 来館勧奨用案内チラシ：10,000 部

(c) 2階総合訓練室リニューアルパンフレット：2,000 部

b 各種イベント開催時に案内ビラ等を活用し、自主防災会等に対して直接又は市内の各消防署を通じて来館勧奨を行った。

(a) 各種イベントの開催案内チラシ：214,300 部

(b) 各種イベントの開催周知ポスター：4,240 部

(イ) 広報媒体による情報提供

a 京都市市民防災センターの来館者用として広報媒体を作成し、来館者に対して防災情報の提供を行った。

(a) 地震関連啓発媒体：3,000 部

(b) 風水害関連啓発媒体：3,000 部

(c) 救急関連啓発媒体 2 種類：4,000 部

b 防災情報を発信する広報媒体(冊子)を作成し、自主防災会等に対して配布した。

(a) 災害に強いまちづくり講座(前期)：1,000 部

(b) 災害に強いまちづくり講座(中期)：1,000 部

(c) 災害に強いまちづくり講座(後期)：1,000 部

(d) 災害に強いまちづくり講座(前期・中期・後期の合本版)：11,000 部

c その他

平成 28 年度版一般財団法人京都市防災協会「事業概要」：400 部

(ウ) インターネットによる情報提供

ホームページにより、防災知識や防災情報の普及を図るとともに、各種イベントや講習会の予定等の情報を提供し、京都市市民防災センターの利用促進に努めた。

(エ) 報道機関等への情報提供

テレビ、ラジオ、新聞の報道機関や情報誌などに対し、積極的に防災体験や各種イベント、防火防災情報等の提供を行い、京都市市民防災センターの来館者増に努めた。

a テレビ、ラジオ放送回数：2 回

b 新聞等掲載回数：12 回

c 雑誌等掲載回数：5 回

d インターネット掲載回数：16 回

(オ) 広聴活動

インターネットEメール、来館者アンケート（窓口サービス評価）等による広聴活動を行った。このうち、来館者アンケート（窓口サービス評価）は、平成28年9月6日（土）から10月5日（水）までの間に来館された中学生以上の来館者にアンケート用紙を配布し、1,384名から回答を得た。

平成28年度 窓口サービス評価結果

対応の仕方	身だしなみ	接遇の態度	説明の仕方	窓口の印象	5項目の平均
・あいさつ ・言葉づかい	・清潔感 ・ふさわしい服装	・笑顔・表情 ・姿勢、誠実感	・親切、丁寧 ・わかりやすさ	・整頓整理 ・案内表示	
4.64	4.65	4.83	4.65	4.60	4.67

注：大変よかった＝5点、よかった＝4点、普通＝3点、あまりよくなかった＝2点、よくなかった＝1点

カ 各種防火防災講習等に係る図書等の販売

- (ア) 応急手当講習テキスト：191冊
- (イ) 応急手当指導者標準テキスト：258冊
- (ウ) 消防用設備等運用基準：83冊

キ 防災用品の普及啓発及び販売

市民防災センターの来館者に対して、防災体験を通じて防災用品の備えの必要性について普及啓発を図るとともに、防災用品の販売（斡旋）を行った。

※1年間で販売した主な防災用品

非常持出品セット	26セット
非常持出袋	187個
乾パン	600個
アルファ化米	289食
キューマスク	118個
給水バッグ	411個

ク 防火防災啓発器材等の貸出し

市民や各種団体等に対して、防火防災啓発器材、防災ビデオ等の貸出しを行った。

- (ア) 防火防災啓発器材の貸出し
地震、水害に関する災害写真パネルや、消防自動車・救急車写真パネル、非常持出品等の防火防災用品等の消防署への貸出しを行った。
貸出件数：61件
- (イ) 防災ビデオの貸出し
防火防災に関するビデオを購入し、ビデオライブラリーの充実を図るとともに、市民、事業所、各種団体等に対してビデオの貸出しを行った。
貸出件数：437件
貸出本数：962本
- (ウ) 子ども用救助服、救急服の貸出し
京都市市民防災センター及び消防局、各消防署における各種イベント行事に活用できるよう子ども用救助服、救急服各15着の貸出しを行った。
貸出件数：96件

ケ 他団体との連携

京都市（消防局）が実施する事業と連携し、市民の防災意識の高揚を図った。

- (ア) 「第45回消防救助技術東近畿地区指導会」の応援会場としてミニイベントを開催
 - a 日時 平成28年7月29日（金）
 - b 会場 京都市市民防災センター

- (イ) 京都市総合防災訓練での防火啓発ブースの出展
 - a 日時 平成 28 年 9 月 3 日(日)
 - b 会場 梅小路公園
- (ウ) 救急フェスタ 2016
 - a 日時 平成 28 年 9 月 9 日(金)
 - b 会場 京都市市民防災センター
- (エ) 京都市消防出初式での防災用品等展示コーナー及び非常食試食体験コーナーを出展
 - a 日時 平成 29 年 1 月 8 日(日)
 - b 会場 京都会館東側岡崎公園内
- (オ) 経営者防災セミナー
 - a 日時 平成 29 年 3 月 22 日(水)
 - b 会場 京都市市民防災センター
- (カ) 文化財マイスターフォローアップ研修
 - a 日時 平成 29 年 3 月 2 日(水)
 - b 会場 京都市市民防災センター

(2) 財務諸表

貸借対照表
平成29年3月31日現在

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	220	220	0
預金	58,535	70,646	△12,112
未収金	979	108	871
前払金	167	199	△32
棚卸資産	1,268	1,207	60
流動資産合計	[61,168]	[72,381]	[△11,212]
2. 固定資産			
(基本財産)			
定期預金	10,000	10,000	0
基本財産合計	(10,000)	(10,000)	(0)
(特定資産)			
経営安定化基金	9,200	9,000	200
特定事業積立金	600	300	300
特定資産合計	(9,800)	(9,300)	(500)
(その他固定資産)			
その他固定資産合計	(0)	(0)	(0)
固定資産合計	[19,800]	[19,300]	[500]
資産合計	80,968	91,681	△10,712
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	21,484	24,931	△3,447
未払法人税等	70	70	0
未払消費税等	895	1,845	△951
預り金	72	121	△49
流動負債合計	[22,521]	[26,967]	[△4,446]
2. 固定負債			
固定負債合計	[0]	[0]	[0]
負債合計	22,521	26,967	△4,446
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	10,000	10,000	0
指定正味財産合計	[10,000]	[10,000]	[0]
(うち基本財産への充当額)	(10,000)	(10,000)	(0)
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	[48,447]	[54,713]	[△6,266]
(うち特定資産への充当額)	(9,800)	(9,300)	(500)
正味財産合計	58,447	64,713	△6,266
負債及び正味財産合計	80,968	91,681	△10,712

正味財産増減計算書
平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産等運用益	1	3	△1
特定資産運用益	2	3	△1
受取会費	1,300	1,300	0
事業収益	188,817	190,155	△1,339
雑収益	303	238	65
経常収益計	190,423	191,698	△1,275
(2) 経常費用			
事業費	155,413	167,659	△12,246
管理費	31,206	4,466	26,740
経常費用計	186,619	172,125	14,494
当期経常増減額	3,804	19,573	△15,769
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	10,000	10,000	0
当期経常外増減額	△10,000	△10,000	0
法人税、住民税及び事業税	70	70	0
当期一般正味財産増減額	△6,266	9,503	△15,769
一般正味財産期首残高	54,713	45,210	9,503
一般正味財産期末残高	48,447	54,713	△6,266
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	10,000	10,000	0
指定正味財産期末残高	10,000	10,000	0
III. 正味財産期末残高	58,447	64,713	△6,266

2 平成29年度事業計画

(1) 事業計画の概要

ア 京都市市民防災センターの管理運営

京都市市民防災センターの指定管理者として、地震体験、強風体験、避難体験、消火体験、応急手当体験、都市型水害体験、防災行動体験、消防ヘリフライトシミュレーターなど各種防災体験を通じて、防災に関する知識や技術の普及向上及び防災意識の高揚を図り、「災害に強い人づくり・組織づくり」に寄与する施設運営を行う。

イ 防火防災に係る各種イベントの開催

学校の夏休み、冬休み及び春休み期間中等の機会や9月の防災週間、救急医療週間、1月の防災とボランティア週間、3月の東日本大震災に関連した防災啓発の期間及び防火防災思想の普及を図るために、災害発生時の行動の手順及び要領が身に着くよう内容を工夫し、次の各種イベントを市民防災センターで開催する。

イベント名（仮称）		開催時期	内 容
BOSAI スプリングフェスタ 2017		4月上旬	春休み期間中に、親子で参加できる防火防災に関するクイズ大会などを行い、防災意識の啓発を図る。
ゴールデンウィーク 防災フェスタ 2017		4月下旬～ 5月上旬	身近な防災関連をテーマに、ゴールデンウィーク期間中に、親子を対象に親しみながら学べる防災科学実験などの内容を実施する。
BOSAI サマーフェスタ 2017		8月上旬～ 8月中旬	夏休み期間中に3週間設定し、親子を対象とした火災予防（子どもの火遊び防止）のスクールや家庭で役立つ震災時の対応方法などの内容を実施する。
防 災 グ ラ ン ド フ ェ ス タ	①防災展	8月下旬～ 9月上旬	防災週間中に、家庭や地域における地震防災をテーマとした展示会などを開催する。
	②救急展	9月上旬～ 9月中旬	救急医療週間中に、応急手当の重要性を訴える展示やAEDの取扱体験などを開催する。
	③来館200万人達成メモリアルイベント	8月下旬～ 9月中旬	来館200万人達成日に式典を行うとともに、左記期間において「200万人達成記念メモリアル期間」として土、日曜日を中心に防災イベントを開催する。
園児の描く消防の図画 展示会		11月下旬～ 2月上旬 (土・日開催)	京都市消防局主催の消防図画募集に応募があった作品の展示を行うとともに、園児等の方に消防業務に親しんでいただける内容を実施する。
冬休み子ども防災 アニメ大会		12月下旬～ 1月上旬	冬休み期間中に、幼児等を対象に防災ビデオを上映し、防災の意識付けを行う。
防災フェア 2018		1月中旬	防災とボランティア週間中に、非常持出し品や震災パネルの展示を行うとともに、園児等を対象とした防災教室などの内容を実施する。
3.11 きずな・京都 一大震災を教訓にー		3月上旬	震災関連をテーマに、家庭や地域で身近に役立つ救出・救護法などを行い、防災意識の啓発を図る。
BOSAI スプリングフェスタ 2018		3月下旬	春休み期間中に、親子で参加できる防火・防災に関するクイズ大会など、楽しみながら防災について学べる内容を実施する。

ウ 防災講演会の開催

地震や台風をはじめとする自然災害をテーマとして、次の防災講演会を市民防災センターで開催する。

事業名(仮称)	開催時期	内 容
災害に強いまちづくり講座Ⅰ	6月下旬・7月上旬	家庭や地域における自然災害に関する内容をテーマとした講演会を2回開催する。
災害に強いまちづくり講座Ⅱ	9月上旬	家庭や地域における自然災害に関する内容をテーマとした講演会を1回開催する。
災害に強いまちづくり講座Ⅲ	10月下旬・11月上旬	家庭や地域における自然災害に関する内容をテーマとした講演会を2回開催する。

エ 防火防災講習の開催

事業所の防火防災体制の強化及び市民の応急手当能力の普及啓発を図るため、京都市（消防局）と連携を図り、次の講習を市民防災センターで実施する。

(ア) 防火・防災講習

a 自衛消防業務講習

区 分	実施回数	1回当たり受講定員	延べ受講定員
新規講習(2日間)	24回	36人	864人
再講習(1日)	10回	50人	500人

b 防火対象物点検資格者講習

区 分	実施回数	1回当たり受講定員	延べ受講定員
講習(4日間)	1回	80人	80人
再講習(1日)	2回	80人	160人

c 防災管理点検資格者講習

区 分	実施回数	1回当たり受講定員	延べ受講定員
新規講習(2日間)	1回	80人	80人
再講習(1日)	1回	80人	80人

d 防火管理講習

区 分	実施回数	1回当たり受講定員	延べ受講定員
講習(2日間)	19回	150人	2,850人
再講習(半日)	2回	150人	300人
乙種防火管理講習(1日)	2回	150人	300人

e 防災管理講習

区 分	実施回数	1回当たり受講定員	延べ受講定員
新規講習(1日)	2回	150人	300人
再講習(半日)	1回	150人	150人

f 防火・防災管理講習

区 分	実施回数	1回当たり受講定員	延べ受講定員
新規講習(2日間)	6回	150人	900人

g 防火・防災管理業務受託法人等教育担当者講習

区 分	実施回数	1回当たり受講定員	延べ受講定員
講習(3日間)	1回	36人	36人

(イ) 救命講習

応急手当普及員講習

区 分	実施回数	1回当たり受講定員	延べ受講定員
本講習(3日間)	12回	30人	360人
再講習(半日)	12回	30人	360人

オ 広報広聴活動の実施

(ア) 京都市市民防災センターへの来館勧奨

京都市市民防災センターの認知度、防災イベントの開催に係る周知について、更に工夫を重ねて充実する。

- a 京都市市民防災センターの来館勧奨用として、年間の開館日カレンダー入りリーフレットを作成し、市内全ての自主防災会、幼稚園、保育園、小・中学校や過去に来館された各種団体、事業所等に配布し、年間の実施事業として計画していただくように依頼する。
- b 市内各消防署、市内各博物館施設、京都市勧業館みやこめっせ、ひと・まち交流館京都、京都市国際交流会館等に対し、京都市市民防災センターの来館勧奨用リーフレットの配布を依頼する。
- c 各種イベントを開催する際には、ポスター、リーフレットなどの広報媒体を作成し、京都市市民防災センター内に掲示するほか、市内の幼稚園、保育園、児童館、学童保育所等へ郵送し、周知を図るとともに、市内の各自主防災会に対し、引き続き消防署及び消防団を通じて回覧、配布を行うなど、効果的にイベント情報を提供する。

また、各種情報誌、テレビ・ラジオ等の報道機関、各種新聞社へ様々な情報を提供し、PRを強化する。

(イ) 広報媒体による情報提供

上記の情報提供以外に、「災害に強いまちづくり講座」の講演録を刊行し、市内の自主防災会、事業所等への配布を通じて、防災情報の提供と防災意識の高揚を図る。

(ウ) インターネットによる情報提供

ホームページの更新内容を充実し、防災知識の普及を図るとともに、各種講習会、イベント予定等の最新の情報をリアルタイムに提供して、京都市市民防災センターの利用を勧奨する。

さらに、京都市消防局と連携し、フェイスブックやツイッターなどを活用したタイムリーな情報発信に努める。

(エ) 報道機関等への情報提供及び取材対応

新聞、テレビ、ラジオなどの報道機関をはじめ、各種情報誌などに対し、積極的に防災情報、イベント情報等の提供を行い、京都市市民防災センターの認知度の向上と来館機会の増加を図る。

(オ) 広聴活動

インターネットEメールや、来館者がより一層の防災意識の向上を図っていただけるアンケート等による直接的な広聴活動を行うとともに、防災体験時にいただいた意見など、市民ニーズの把握に努め、防火・防災体験、研修等の内容を充実する。

カ 防災用品の普及啓発及び販売

防災用品の備えの重要性について、普及啓発を図るとともに、来館者やインターネット、電話等による防災用品の問合わせに対する対応及び防災用品の販売を行う。

キ 防災啓発ビデオ、防火防災啓発器材等の整備及び貸出し

防災啓発ビデオ、防火防災啓発器材及び災害写真パネル等の内容・種類を充実するとともに、市民、事業所及び各種団体等に貸出しを行う。

(ア) 防火防災器材等の貸出し等

非常持出品等の防火防災用品や地震に関する展示パネル等の充実を図り、消防署等に貸出しを行う。

(イ) ビデオの貸出し等

新たに製作された防火防災及び応急手当等に関するビデオ（DVD 版）を中心としたビデオライブラリーを充実させるとともに、インターネットのホームページに最新情報を掲載し、利用者に分かりやすい情報提供を行い、貸出事業を通じて、市民の防災意識の啓発を図る。

ク 他団体との連携

「園児の描く消防の図画展示会」、「救急フェア」及び「京都市自衛消防隊訓練大会」等の事業を京都市消防局との共催事業として実施するほか、京都大学防災研究所等の団体とも連携を図り、他団体が行うイベントにも協会の事業目的に沿う事業については、積極的に参画する。

(2) 予算

正味財産増減予算書
平成29年4月1日～平成30年3月31日

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産等運用益	2	2	1
特定資産運用益	1	1	0
受取会費	1,300	1,300	0
事業収益	191,347	190,644	703
雑収益	209	209	0
経常収益計	192,859	192,156	704
(2) 経常費用			
事業費	160,685	182,305	△21,620
管理費	34,174	7,788	26,386
経常費用計	194,859	190,093	4,766
当期経常増減額	△2,000	2,063	△4,063
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	9,668	10,000	△332
当期経常外増減額	△9,668	△10,000	332
当期一般正味財産増減額	△11,668	△7,938	△3,730
一般正味財産期首残高	43,824	50,410	△6,586
一般正味財産期末残高	32,157	42,473	△10,316
II. 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	10,000	10,000	0
指定正味財産期末残高	10,000	10,000	0
III. 正味財産期末残高	42,157	52,473	△10,316

(参考1) 財務状況の推移

(単位：千円)

		H26 (決算)	H27 (決算)	H28 (決算)	H29 (予算)
正味財産増減計算書	経常収益	208,562	191,698	190,423	192,859
	当期経常増減額	12,420	19,573	3,804	△2,000
	当期正味財産増減額	2,350	9,503	△6,266	△11,668
貸借対照表	総資産	89,153	91,681	80,968	
	総負債	33,943	26,967	22,521	
	正味財産	55,210	64,713	58,447	

(参考2) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		H26 (決算)	H27 (決算)	H28 (決算)	H29 (予算)
委託料	市民防災センターの管理運営事業 (指定管理)	140,672	142,924	142,924	142,924
	機関誌「京都消防」発行事業	8,892			

第3 経営評価結果

1 所管局による経営状況の全般評価

財務面	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度の当期経常増減額は黒字を維持しているが、公益目的支出計画による本市への寄附分を差し引くと赤字となり、正味財産から補てんしている状態である。ただし、一般正味財産の期末残高は約5千万円を保持しており、公益目的支出計画による本市への寄附は平成29年度が最終年度となることから、経営状態に問題はないと言える。
事業面	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度の各種防災体験、イベント、防災講演会等を通じて、防災知識・技術の普及に努め、災害に強い人づくり・組織づくり・地域づくりに十分寄与できた。 来館者対象の窓口アンケートにおいても、毎年、高い評価を得ており、来館者の満足度も高い。 防災事業の効果を定量的に把握する指標である「防災意識の高揚」についても目標どおりの実績を上げており、より実践的かつ工夫を凝らした指導に取り組んでいると評価できる。

2 外郭団体総合調整会議による評価コメント

財務面	<ul style="list-style-type: none"> 事業収益の伸び悩みと人件費、修繕費等の増加により3期ぶりに当期一般正味財産増減額が赤字となった。公益目的支出計画による本市への寄附を除くと黒字であるが、引き続き財務改善に取り組んでほしい。
事業面	<ul style="list-style-type: none"> 施設リニューアルによる増客効果は一巡しており、今後も有益かつ魅力的な展示や講演、イベントを行うことで、引き続き来館者の確保に努めるとともに、本市派遣職員の減員等の運営効率化にも取り組んでいただきたい。